

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和3年11月8日（月）第5校時
3年1組（男子6名 女子13名 計19名）

1、題材名 自分や家族にとって住み心地のよい快適な住まい（全12時間）

2、「衣生活」「住生活」における生徒の実態と題材設定によせる教師の願い

（1）生徒の実態

生徒の実態を見ると、製作の授業などに意欲的に取り組み、身に付けた知識や技能を生かし課題に取り組む様子が見られる。しかし、家庭生活を見ると洗濯やアイロンなどの衣服を清潔に保つ活動に比べ、ボタン付けや手縫いまたはアイロンでの衣服の補修などは家族に任せている生徒も多い。また、災害時の屋内や屋外での危険の可能性について気づいているが、避難時の行動を家族で話し合っておいたり、具体的な対策を行っていたりする家庭は少ない。

（2）題材設定について

これからの子どもたちに求められるものは作品をきれいに作る技能だけでなく、授業の中で身に付けた技能や知識を使い、身近な生活の課題を解決したり、家族や地域での実践を行ったりすることができるようになる力を身に付けることである。授業内での製作に終わることなく、必要感に応じた布を用いた製作や衣服の補修を日常の家庭生活で実践できるようになってほしい。また、昨今自然災害は身近であり、一昨年の台風19号の際には川上村でも避難指示が出ており、実際に避難所へ避難した生徒もいる。それ故防災意識はあるものの、実際に村内のどこが危険箇所か知っていたり、避難時を意識し備蓄を備えたりなど具体的な防災対策をしている家庭は少ない。ここでも学習したことを家庭に返すような学習を組み立てたい。また、新学習指導要領では日本の少子高齢化の進展に対応して、高齢者など地域の人々との協働の必要性の理解や高齢者の身体的特徴を理解した関わり方の工夫が求められている。避難所には中学生と同年代のみならず、乳幼児から高齢者まで様々な年代の人が集まることが想定される。そこで、自然災害に向けて自分や家族の安全を守る工夫が考えられ、避難時には中学生の自分にできることを考え、地域と協働できる姿を願い、本題材を設定した。

3、題材の目標

〔知識及び技能〕	〔思考力，判断力，表現力等〕	〔学びに向かう力，人間性等〕
・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取扱い、製作が適切にできる。 ・自然災害時には地域の人々と協働する必要があることや高齢者との関わり方について理解する。	・生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作、自然災害におけるわが家の防災対策の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価、改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自然災害に備えるためのわが家の防災対策について、課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、生活を工夫創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。

4、題材の展開

前題材からのつながり：住まいの安全（住生活）

家庭内事故について知り、高齢者体験や保育園訪問での幼児との関わりを通して、家庭内事故の原因や危険箇所、対策を考えることができる。

働かせる見方・考え方：「健康・快適・安全」「協力・協働」の視点から生活を見つめ、生活経験や学びを関連させること

段階	□学習活動（時間）	指導・◎評価
みつめる	1 日本の自然災害について知り、自分の家でできる対策を考える（1） ①身近な自然災害を考える ②自然災害に向けて家庭で出来る対策を考える	課題を見い出す場面 ・日本の自然災害はどのようなものがあるか考える。 ・地震発生時の屋内の動画を見て、家具の固定や避難への備えが必要であることに気づかせる。 ◎自然災害に備えるための住空間の整え方について理解できる。（知・技） ◎自然災害に向けて家庭でできる対策を自分事として考えようとしている。（学びに向かう力）
題材を貫く問い：自分や家族にとって住み心地のよい快適なすまいとはなんだろう		
実践する	2 防災バッグの製作（9） ①ミシンの基礎技能 ・上糸、下糸のセットの仕方 ・下糸の巻き方 ・直線縫い ・方向転換 ・返し縫い ②防災バッグの製作 3 避難時の安全な避難経路と必要な物を考えよう（1）※本時 ・事前アンケートの実施 ①安全な避難経路を確認する。 ②避難所での生活で必要に物を考える。	知識・技能を身に付ける場面 ・ミシンの各箇所や製作に用いる道具の名称を知る。 ・ミシンの基本的な扱いを知る。 ・直線縫いや返し縫いができるようにする。 ◎ミシンやアイロンを安全に取り扱うことができる。（知・技） 身に付けた知識・技能を使い製作する場面 ・基礎技能を生かし防災バッグを製作する。製作の中で真っ直ぐ縫うために意識することは何か考えたり、布の厚さに対応した縫い方を考えたりして丁寧な作品作りをする。 ◎製作の用途に適した縫い方ができる。（知・技） 場面 ・ハザードマップから家周辺の危険箇所を確認する。 ・資料から本当に必要な防災持ち出しグッズを考える。 ◎ハザードマップを活用し、安全な避難経路を考えようとしている。（思・判・表） ◎資料や仲間の考えから備蓄や持ち出し品について自分の家庭に合った工夫を考えようとしている。（学びに向かう力） 地域との関わりを考える場面 ・避難所には様々な年代の人が集まることに気づかせる。 ◎今までの学習（前題材も含む）を生かし、避難時や避難所、日常での関わり方について考えようとしている。（学びに向かう力）
生かす	6 避難時に私たちができることを考えよう（1） ①避難所には高齢者や幼児がいることに気づく。 ②避難所で中学生の自分に何ができるか考える。	

次題材へのつながり：消費生活・環境についての課題と実践

3年間の学習を生かし、A家族・家庭生活やB衣食住の生活とも関連させながら、自分や家族の消費生活について問題を見いだし課題を設定し、解決に向けて計画を立てて実践する。

5、本時案

(1) 本時の主眼

アンケートの結果から防災知識や対策が不十分であることに気づいた生徒が、災害時に避難することを想定した場面で、資料を活用したり仲間の考えを知ったりすることを通して、家から避難所までの危険箇所や家庭環境による備蓄の違いに気づき、安全な避難経路や自分の家にあった備蓄や避難時に持ち出す物を考えることができる。

(2) 本時の位置（全12時間中11時間）

前時：防災バッグの製作、防災アンケート

次時：災害時に私たちができること（家族、地域の人との関わり）

(3) 本時の展開

過程	学習活動	予想される生徒の反応	指導・評価（◎）	
課題把握	〔学習問題〕 災害時、自分の家から避難所へ避難しよう。			5
	1, アンケートの結果を知る。	- 私の家でも防災グッズはあまり用意していないな。 - 家族で避難経路は確認していないな。 - どこが危険箇所になるのかな。	- アンケート結果を提示する。 - グラフ化、図化し見やすくする。 - クラス全体の防災意識・実践についてスカイメニューのポジショニングで確認する。	
追究・実践	〔学習課題〕 危険箇所や安全な避難経路を知り、避難時をイメージして必要な物を考えよう。			
	2, 危険箇所の確認と避難経路の記入をする。	- ここが土砂崩れ危険箇所だと避難時には避けた方がいいね。 - 自分の家から近い避難所はここここだね。 - ここまで行くのにこの経路とこの経路が使えるそうだね。	- スカイメニューの発表ノートを使いハザードマップを配布する。 - 発表ノート上に自分の避難経路を記入させ提出させる。 - 複数の避難経路が考えられる場合は色を変え記入させる。	15
	3, 避難時に必要な物について仲間の考えを共有する。	- 私はこれが必要だと考えたけど、Aさんのこの持ち物は思い浮かばなかったな。 - 他にも必要な物がありそうだな。	避難時に必要な物について前回記入した発表ノートを共有出来るようにし、自分のノートとさせる。	5
	4, 資料から様々な家庭環境に応じた備えがあることを知り、自分の家に合った必要な物を考える。	- 私が必要だと思った物と違うな。 - 本当に必要な物ってなんだろう。 - 私の家ではおじいちゃんがいるからそれに合わせた物を用意しなきゃな。 - 避難時は心細いからその対策に合うような物を用意した方が良いな。 - 私は家が崩壊したときのために家族の写真を持っておこうかな。	東日本大震災時に避難した人の様子が分かる資料を見せる。避難時に身体的のみならず精神的にも必要である物も取り入れて考えさせる。 ◎ハザードマップを活用し、安全な避難経路を考えようとしている（思・判・表） ◎資料や仲間の考えから備蓄や持ち出し品について自分の家庭に合った工夫を考えようとしている。（学びに向かう力） →発表ノートから評価する。	20

